

## 初開催の「スマホ教室」 操作方法や活用方法など学ぶ

スマートフォンなどのデジタルツールの使用方法を学んでもらおうと5月22日、町主催の「スマホ教室」が町まちなか交流センターで開かれ町民16人が参加しました。初開催となったこの教室は、携帯電話ショップの販売員が講師となり、スマートフォンの起動・終了方法やマネーモードの設定方法、アプリの活用方法などを解説。参加者からは、「難しいと感じていたが、簡単に操作方法を理解できた」「気軽に楽しく学ぶことができて良かった」などの感想が挙げられていました。



## 町内一斉に「ごみ0<sup>ゼロ</sup>作戦」 可燃ごみ230<sup>キ</sup>不燃ごみ70<sup>キ</sup>を回収

町をきれいにし、不法投棄をさせない環境づくりを目指そうと、町内一斉に「ごみ0<sup>ゼロ</sup>作戦」が5月26日に行われました。自由参加型で行われたこの活動には、各地区の自治会や子供会、各家庭などが主体的に参加し、沿道や自宅周辺、漁港などでごみを拾う姿が見受けられました。収集されたごみは、可燃ごみ約230<sup>キ</sup>、不燃ごみ約70<sup>キ</sup>で年々回収量は減少傾向にあります。長崎地区で家族と参加した内館莉乃さん（山田小1年）は「町がきれいになってうれしいです」と笑顔で話しました。

## 「親子でチャレンジ！釣り講座」 親子らが大物の引きに大興奮

6月9日、「親子でチャレンジ！釣り講座」が船越漁港で開かれ、町内外から約25人が参加しました。これは、釣りの楽しさを体験してもらおうと町教育委員会が開いたもので、講師には宮城県出身のユーチューバー「アナハゼティ」が登場。餌の付け方や魚をおびき寄せるコツを伝授し、子どもたちはソイやドンコなどを釣り上げては、大きな歓声を上げていました。参加した織笠瑠偉さん（山田小3年）は「魚の引きが気持ち良かったです。また釣りに来たいです」と大物の引きに興奮気味でした。



## 「B&Gバレーボール大会」に80人 チームで連携し熱い試合繰り広げる

山田町B & G海洋センター体育館で、5月22日から24日にかけて、「第28回山田町B & Gバレーボール大会」が開かれました。6人制のルールで行われた同大会には、女子の部と混成の部の2部門に中学生から社会人まで計80人の参加者が集まり、優勝を目指し白熱した試合を繰り広げました。選手らは、声を掛け合いながら連携を取り、スパイクやレシーブなど随所で光るプレーを見せていました。試合の結果、女子の部は「あまんちゅ」、混成の部は「わいわいくらぶ」が優勝しました。





# 田町のわだこ

今月の題字 中村 琉斗さん（山田小6年）

## 山田小5年生が田植え体験 泥にまみれ一株一株丁寧に

5月23日、山田小学校(佐々木哲也校長、児童448人)は、白石集落農業生産組合(佐々木武文組合長)が所有する水田で田植え体験を行いました。これは、農業への理解と関心を深めてもらおうと同組合が開催したもので、参加した5年生63人は、組合員の皆さんの指導を受けながら手植え作業に挑戦。途中、ぬかるみに足を取られ、泥まみれになる姿があちらこちらに見られましたが、一株一株丁寧に植え込んでいました。参加した篠澤妃菜乃さんは「難しかったけど、頑張って植えました。秋の収穫が楽しみです」と笑みを浮かべていました。



## 豊間根小3年生が大豆の種まき体験 “秋の収穫が待ち遠しいです”

6月5日、豊間根小学校(富澤広子校長、児童109人)では、同校近くの農地で大豆の種まき体験を行いました。同体験会は、児童たちに食の大切さを知ってもらおうと行われたもので、参加した3年生25人はゆたか農産やまだ(瀬川智宏代表)の構成員らの指導を受けながら種まきの手法を学びました。作業は用意された約1.25㎡の区画に尺度用ロープを使い等間隔に種と肥料をまいていくもので、児童らは額に汗をかきながら種まきに挑戦。作業を終えた佐々木咲奏さんは「おいしく育てて欲しいです」と秋の収穫が待ち遠しい様子でした。



## 「3.11山田せきやばし絆の会」 ハナモモ植樹で感謝を形に

関谷担い手仮設団地で避難生活を送った住民らで構成される「3.11山田せきやばし絆の会」(川端信作会長)が、5月19日、船越公園で植樹活動を行いました。これは被災後の暮らしを支援してくれた人への感謝の気持ちを形にしようと同会が企画したもので、会員ら約20人が参加。時期によってスイセンやコスモスが咲く花壇に新たな彩りとして、復興記念樹ハナモモを約60本植え付けました。川端会長は「これまで支えてくれた人への感謝の気持ちを込めて植樹しました。3年後に咲くのが楽しみです」と笑顔を見せていました。

